

千葉市立高等学校改革の評価・検証～最終まとめ～

概要版

平成 26 年 3 月 千葉市教育委員会

1 背景と経過

★情報化や国際化をはじめとする社会の変化

★多様な進路ニーズや教育ニーズに対応

★文武両道の教育の伝統を生かした魅力ある市立高等学校づくり

平成17年6月

千葉市立高等学校改革基本方針

市立千葉高等学校



千葉大学との連携事業やスーパーサイエンスハイスクール(SSH)研究で培った研究機関及び研究者との連携を生かした出張講義等を教育課程に取り込み、多様な進路ニーズに対応する科目を設置し、普通科に単位制を導入

市立稲毛高等学校



スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール研究で培った英語教育の先進的な取組を発展させ、中学・高校の6年間における計画的・継続的な指導により、コミュニケーション能力の飛躍的な向上を目指す中高一貫教育を導入

平成19年4月

市立高等学校改革

多様な進路ニーズに対応した
進学重視型単位制高等学校への移行



真の国際人を育成する
中高一貫教育の実施(附属中学校の開校)

平成23年2月

千葉市立高等学校改革の評価・検証～中間まとめ～

〈評価・検証の目的〉

平成22年3月、市立千葉高等学校においては、単位制移行後、初の卒業生を輩出し、同年4月、市立稲毛高等学校・附属中学校においては、第1期生が「内進生」として市立稲毛高等学校に進学したことを受け、市立千葉高等学校卒業生の進路状況や市立稲毛高等学校の内進生及び附属中学校の生徒における状況等の調査に相応しい年度であることから、平成23年2月に「千葉市立高等学校改革の評価・検証～中間まとめ～」を実施した。

〈主な成果〉

- 1 市立千葉高等学校及び稲毛高等学校・附属中学校は、進路ニーズや教育ニーズの多様化に適切に対応できており、生徒・保護者の満足度は、かなり高い。
- 2 志の高い教職員とそれに応える生徒のやる気、さらには両校の教育活動に対する行政の支援が相乗効果として表れている。
- 3 これまでの文武両道の教育の伝統と、市立千葉高等学校の理数教育及び稲毛高等学校の国際理解教育の成果が生かされている。

2 評価・検証～最終まとめ～

(1) 評価・検証の目的

改革後6年を経過した平成25年3月には、市立稲毛高等学校初の内進生が卒業し、その進路状況等を調査することが可能となり、「中間まとめ」における課題への対応とこれまでの成果を改めて検証するとともに、市民の多様なニーズと社会の変化に対応できる魅力ある市立高等学校づくりの更なる推進に資するため、本年度「千葉市立高等学校改革の評価・検証～最終まとめ～」を行った。

(2) 中間まとめにおける課題への対応

学校の特色や改革の成果等についてのアピール

両校とも各種説明会、学校公開、近隣小・中学校との交流活動等の実施に加え、市立千葉高等学校では、千葉都市モノレール車両の車内ポスターによる研究成果の発表や、同モノレール千葉駅構内で生徒の作品展示を行った。また、市立稲毛高等学校・附属中学校では、千葉市教育研究会国際理解部会の開催に向けた協力や、市内中学校職員の初任者研修における授業の公開、文化祭で好評を得たエイサーと三線演奏を地域でも披露するといった積極的な活動を行った。

市立稲毛高等学校・附属中学校の施設設備の改善

昨年度まで、部活動等の活動場所については、千葉市中央卸売市場のグラウンドを借用し、対応していたが、平成28年度より、隣接する旧高浜第二小学校の校庭と体育館を附属中学校で活用することとした。

(3) 改革の成果

市立千葉高等学校

○多様な選択科目・特色ある教育を実現

進学重視型単位制の導入に伴い、教員の加配が認められ、多様な選択科目の開設やSSHなど特色ある教育が可能になった。

○進路実績の向上

「充実した施設・設備」に対する生徒・保護者の満足度も高く、「1日7限授業」や「生徒の学習ニーズに対応した選択教科」の導入により、4年制大学への進学率や国公立大学合格者数は、着実な伸びを示している。

・「施設・設備」に満足と回答した割合 生徒の93%
・進路実績

	H16	H21	H24
4年制大学の現役進学率	50.5%	72.7%	73.0%
国公立大学現役合格者数	20人	40人	47人

○理数教育の伝統や成果を継承

理数教育の成果が、生徒へ十分に浸透しており、理系大学への進学率が高い。

- ・平成24年度4年制大学に進学した現役生233人のうち理系大学の進学者は81人(35%)
(参考) 県内の公立高校における進学者のうち理系大学の進学率 27%(H24年度)

○生徒の主体的な活動の継続

生徒は、部活動や行事に自覚と自信を持ち臨んでおり、引き続き、主体的・活発な活動を行っている。

市立稲毛高等学校・附属中学校

○高い英語力とコミュニケーション能力の育成

生徒は、先進的な英語教育と6年間の継続的な指導により、高い英語力とコミュニケーション能力が育成されている。

- ・高校3年の内進生におけるGTEC平均スコアは594点(H25年度)(海外の高校の授業に参加できるレベル。英検2級相当レベルは570点以上)

○高い満足度

「真の国際人を育成する中高一貫教育」・「中高6年間の継続的な指導」・「先進的な英語教育」は、生徒・保護者・卒業生に高い満足度が得られている。

・満足度(「とても満足」もしくは「やや満足」と回答した割合: H24年度)

	生徒	保護者
真の国際人を育成する中高一貫教育	85%	96%
中高6年間の継続的な指導	85%	93%
先進的な英語教育	93%	98%

○進路実績の向上

全校生徒が切磋琢磨し、4年制大学への進学率や国公立大学合格者数は、着実な伸びを示している。

・進路実績

	H16	H21	H24
4年制大学の現役進学率	54.3%	66.9%	69.3%
国公立大学現役合格者数	16人	12人	26人

○中高共同の活動が充実

部活動や学校行事等、6年間のつながりを生かした中高共同の活動が充実している。

「千葉市立高等学校改革基本方針」に基づく本市の高等学校改革は、良好な成果を収めている。

- ① 進路ニーズや教育ニーズの多様化へ適切に対応できており、生徒・保護者・卒業生に高い満足度が得られている。
- ② 文武両道の教育の伝統と、それぞれの改革の特色が調和し、良好な成果を収めている。
- ③ 熱心な教職員の指導と生徒の積極的な姿勢、教育活動に対する行政の支援により、教育効果が上がっている。

(4) 課題

市立高等学校改革の成果や効果をより地域全体に波及させるためのさらなるアピール

- ・積極的な授業公開や文化祭の開催時期を検討
- ・地域との連携を強化し、外部の学校や教育機関にも成果を発信

市立高等学校改革の実効性を高める上での優秀な人材の確保

- ・教職員の公募制の実施に向けて検討
- ・教職員の増置など配置の改善や教育活動の実施方法の工夫

教育課程上の課題に対する手立て

- ・大学入試改革に対応した教育課程の編成に向けた検討(市立千葉)
- ・内進生と外進生の学習進度の違いを考慮した、中高の教育内容全体の検討(市立稲毛・附属中)

教育委員会事務局の組織体制の強化

- ・課題への対応を図り、より魅力ある市立高等学校づくりを推進するため、教育委員会事務局の組織体制の強化や学校とのより強い連携が必要

(5) 今後の方向性

今後も、市立千葉高等学校においては、「科学都市ちば」(平成23年6月)の実現に向け、本市における小・中学校の理数教育をリードする役割を担い、その核となる学校を目指すことが期待されている。また、市立稲毛高等学校・附属中学校においては、文部科学省が掲げる「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」(平成25年12月)の先駆的な存在として、「真の国際人を育成する教育」に励み、より発展することが期待されている。今回の検証を踏まえ、これからの市立高等学校のあり方やその姿を実現していく上で必要となる対応を検討していく必要がある。

お問い合わせ 千葉市教育委員会 教育総務部企画課 ☎043-245-5908
学校教育部学事課 ☎043-245-5928